

わたしの聖戦

◎◎女性が働くところの現状◎◎ 79

医学ジャーナリスト・医学博士 植田美津恵

医師万能という幻想

最近気になるCMがいくつかある。どれも、商品の紹介後に「〇〇のときには医師に相談しましょう」のせりふで締めくくる内容だ。「医師」ではなく、「かかりつけ医」とか「お医者さん」と表現するものもある。

商品とは、つまりは健康に関するものなのだから、当然健康にまつわる心配事は医師にお任せしましょうというあたり、一見当たり前のようだが、これが私には引つかかるのだ。

頻繁に報道されるように、現在日本の医療は危機感にあふれている。主に人手不足や医療費について、これといった抜本

たっていないいうことから病院へ行け、医師に相談しろ、と安易に繰り返す。病院へ行けば、医師に相談すればそれだけ医療費に反映することを承知の上での勧奨だろうか。また、医師は何の相談でも乗れると本気で信じているのだろうか。

に報道された「メタボリック症候群」も同じ。メタボは病気ではなく、メタボ体型の人は病人でもない。放っておけば、動脈硬化や脳や心臓の血管障害を引き起こすことから、病気のリスクを有する人ではあるもののそれ以上の意味はない。メ

壊してしまうのは目に見えている。健康のことをすべて医師に託し、寝たきりになっても医師の訪問を待ちわび、まるで神を見るように、その背中に手を合わせる高齢者の姿を見ると、医師は神でも万能でもない、改めて余計な口をはさみたくなるのだ。

メタボは
病気でなくて……



タボ、すなわち内臓脂肪は、運動や食生活を少し意識することで数値に反映する生活習慣病の代表格である。自分で努力し、重篤な病気を予防できれば、医療費の削減に大きく貢献する期待があったはずなのに、いつのまにか病院が「メタボ外来」をくり、数値が少し基準値から外れているだけで薬を処方し、完全に患者として位置づけられてしまった。これでは、医療費はさらに上昇し、無駄な治療がかえって健康体を

「自分の健康は自分で守ろう」とか「セルフ・メディケーション」を推奨する主張とは明らかに相反するキャッチコピーであり、これではどうしたらいいか迷いが生じてしまう。

昨年あたりからしきり

イラスト・三浦義雄